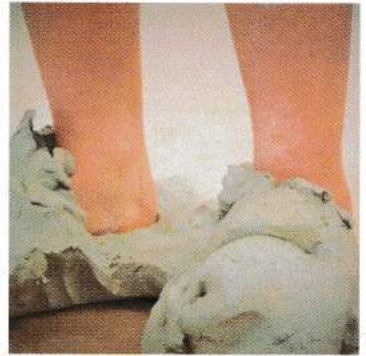


# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 附属幼稚園の運動会って？

附属幼稚園の運動会は、「発表会」ではなく、「発表会」ではない。むしろ、子どもたちが、自分たちの力で、いろいろなことを、表現する、という、活動の、場、である。子どもたちは、運動会を通して、いろいろなことを、学び、成長する。そして、自分たちの力で、いろいろなことを、表現する。これは、子どもたちの、成長の、証、である。そして、子どもたちの、成長の、証、である。そして、子どもたちの、成長の、証、である。

附属幼稚園の運動会は、「発表会」ではなく、「発表会」ではない。むしろ、子どもたちが、自分たちの力で、いろいろなことを、表現する、という、活動の、場、である。子どもたちは、運動会を通して、いろいろなことを、学び、成長する。そして、自分たちの力で、いろいろなことを、表現する。これは、子どもたちの、成長の、証、である。そして、子どもたちの、成長の、証、である。そして、子どもたちの、成長の、証、である。



### 大学の吹奏楽部ミニライブ！

- 「となりのトトロ」など楽しい曲を聴かせてくれました。知っている曲は、みんなで楽しく歌いました。
- 色々な楽器の音色を一つ一つ聴かせてくれました。どれも違って、どれも素敵でした。触らせて音を出させてくれました。



## もし、岡本太郎が生きていたら。



みなさんは、岡本太郎という芸術家をご存じだと思います。そうです、あの「太陽の塔」の。近年彼の偉業が再評価されるにつれ、特に若者の中には、その前衛的な考え方に憧憬の念をもち、名言を座右とする者が増えていきます。若くはありませんが、私もその一人です。

そんな彼の偉業の一つが「縄文土器」の芸術性を世に知らしめたことです。彼は、誰に褒められたいとか認められたいとかではなく、日々の生活や自分の内面から自然と生まれてくるエネルギーによって形作られた造形物こそが真の芸術であるとししました。そして誰が作ったとか、値段がいくらとかかが価値を決めるのではないと言いました。「縄文土器」はまさにそれです。特に「火焰型土器」の圧巻の美しさ。欲や邪念の無いところに真の芸術は生まれるという岡本太郎の考えに私は賛成です。欲や邪念なく表現するというのは、本当に、至難の業だからです。

そして私は見つけました。それと同じレベルの芸術が幼児の手から生まれることを。子どもたちの手によって、形作られた粘土の圧倒的な迫力と美しさ。既成概念にまみれた大人の手からは決して生まれません。岡本が生きていたら、きっとあのギョロツとした目を更に大きくして「こりゃあすごい！」と言って見て回ったでしょう。そして彼の撮った「火焰型土器」の横に、子どもの粘土の写真を並べたかもしれません。

